

平成 27 年度  
事業計画

学校法人 津曲学園

鹿 児 島 国 際 大 学

鹿 児 島 高 等 学 校

鹿児島修学館中学・高等学校

鹿 児 島 幼 稚 園

# 目 次

鹿児島国際大学 . . . . .	2
鹿児島高等学校 . . . . .	1 2
鹿児島修学館中学・高等学校 . . . . .	1 6
鹿児島幼稚園 . . . . .	1 9

# 鹿児島国際大学

## 1 基本方針

本学は、鹿児島の進取開明の伝統を継承しつつ、東西文化の融合を趣旨とする建学の精神に則り、平成 27 年度は次に掲げる教育計画、研究計画、産学官連携の取組、国際化の推進、学生募集計画、施設整備計画及びその他重点的事項に積極的に取り組み、「国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材（地域活性化に思いを馳せ、国際的に活躍する人材）」及び「地域に暮らす人々の生活を生涯支え続けるための人材」の育成に努める。

## 2 教育計画

教育改善のため、平成 28 年度新カリキュラム実施に向けての体制づくりを行う。新カリキュラムは学科の設置理念に立ち返り、その上で、社会のニーズが反映され、学修力の向上を目指すものである。

教育の質保証のための制度導入、学修支援のための環境整備、課外の支援を含めた学科教育がより有効なものとなり、本学がすべての在学生にとって魅力のある空間となり、すべての卒業生にとって感謝の対象になり得るように取り組む。

### (1) 全学的な取組

#### ①FD活動の充実

- a. IR 担当による教学データの収集・分析を行い、大学教育の質保証等の資料として活用する。
- b. 学生の授業アンケート、教職員相互による授業参観等の充実を図る。

#### ②退学防止対策の推進

- a. 学科ごとに退学防止の対策と対応を作成し、修学意欲の低い学生への早めのアプローチを行う。
- b. 前期及び1年間の成績を保護者に通知し、1・2年生の成績不振者を対象とした保護者懇談会を各学期に実施する。
- c. 新入生を対象とした「心理的スクリーニングテスト」を実施し、大学への適応度を把握した上での個別支援を行い、クラス担任等との連携を図る。
- d. アクティブ・ラーニングの拡充を促し、教育面からの学力不振者の減少に努める。
- e. 1年生の中途退学者防止のため、退学防止のノウハウのある専門家のコンサルティングを受け、退学防止に向けた入念な検討を行う。

#### ③学修支援の充実

- a. 学生の基礎学力のボトムアップを目的とした学修支援機能の充実を図る。
- b. 各学科における計画の下、「ウォーミングアップ学習（入学前教育）」を実施し、高校教育から大学専門教育へのスムーズな移行を図る。

#### ④平成 28 年度GPA制度の導入

- a. 成績評価による学修成果を総合的に判断する指標として、「鹿児島国際大学GPA（Grade Point Average）制度」の導入方針や活用方法などの検討を進める。

b. 学則など関係諸規程の整備を行う。

⑤平成 28 年度新カリキュラム（学士課程）の実施

a. 学則など関係諸規程の改正を行い、それに付随する関係機関への申請手続きを行う。

b. 学修成果を高め、学士課程教育から大学院教育まで一貫した視点で教育課程の編成等を行うための準備として、履修モデルやナンバリングなどの整備を図る。

c. 教務システム (Live Campus) を新カリキュラムに対応できるように内容を精査し、プログラム等の修正を行う。

(2) 経済学部

経済・経営に関する専門的な講義、簿記会計・情報に関する実践的な授業、地域おこしやインターンシップなどのフィールドワークにより、国際社会と地域社会で活躍できる人材の養成に取り組む。特に、演習を通して個々の学生に応じた指導に力を入れ、新入生が大学に居場所を見つけられるよう特に配慮する。また、意欲ある学生の公務員試験や資格取得等に向けた自学自習を特別に支援するプログラムを開始する。

①経済学科・経営学科共通

a. 新入生が大学での居場所を見つけやすくするために、経済学部教員全員参加で、上級生 S A（スチューデントアシスタント）の協力を得て、新入生歓迎パーティーを実施する。

b. 意欲ある学生の自学自習を支援する 4 つの特別プログラム（公務員・教員・簿記上級・F P）を開始して軌道に乗せ、一定の合格者・資格取得者を出す。

②経済学科

a. 学生のより効率的な学習を図るために、授業科目の開講学期や時間割などを配慮し合理化する。

b. プレゼン力の向上及びアクティブ・ラーニングの実践など、演習指導の充実を図る。

c. インターンシップやフィールドワークなど、就業力の育成に取り組む。

③経営学科

a. 新入生の順応を促進し、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を育成するため、プロジェクト型小研究を行い発表会を開催する。

b. 1 年次後期（新入生ゼミナールⅡ）に「経営者と語る会」を実施するほか、2 年次からの演習等を通じてキャリア形成のための支援を行う。

c. 学生の学修意欲の向上を促すため、新入生ゼミナール等で上級生 S A（スチューデントアシスタント）の協力を得るほか、国内・海外インターンシップへの参加を促す。

(3) 福祉社会学部

学生の実態（学力・資質など）を踏まえ、教員各自がより分かりやすい講義作りに尽力するとともに、アクティブ・ラーニングとして強調される双方向性・協働性等を担保した授業づくりを意識し、学生の専門性が確実に伸長するように配慮する。また、学生の自主

的活動やサークル活動，ボランティア活動などを積極的に支援するとともに，活動の成果を交流する場を可能な限り確保する。これらを実現するためのFD活動の充実も図る。

#### ①現代社会学科

- a. 卒業後も学科に対する帰属意識及び学科への誇りを持ち続けられるように，講義・演習などの質を保障するとともに，学生生活への目配りにも留意する。
- b. 募集停止後4年目に入る現代社会学科は，残り1年間の教育に全力を尽くし，在学生の資格取得及び全員の卒業を実現する。

#### ②社会福祉学科・児童学科共通

- a. 「新入生ゼミナール」や実習などの体験的な学び（フィールドワーク），双方向的・協働的な講義・演習を通して，主体的な学び及び資格・免許取得を軸としたキャリアデザインを支援する。

#### ③社会福祉学科

- a. ボランティア活動や公開講座などの運営に積極的に学生を関わらせること及びその体験を交流する機会を確保することなどによって，主体的なキャリアデザインを支援する。
- b. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格率を上げることが学生募集へ直結することから前年度比5%以上合格率を上げることを目標とし，その実現のために社会福祉士受験対策講座などの充実を図る。

#### ④児童学科

- a. 児童学会の活動や学校支援ボランティアなどの活動を支援すること及びその体験を交流する場を確保することを通して，主体的なキャリアデザインを支援する。
- b. 「特例講座」の確実な運営に万全を尽くす。

### (4) 国際文化学部

「国際的感覚を身につけつつ，地域社会に貢献する人材を育成する」という建学の趣旨に基づきながら，グローバル化が進む現代社会に即応した人文科学諸領域ならびに音楽芸術の教育に取り組む。学部の社会的認知度を高め，入学定員を確保しながら，少人数教育（演習・レッスン），フィールドワーク，インターンシップ，海外研修など多彩な教育機会を提供することで，生きる力や就業力の育成に努める。

#### ①国際文化学科

- a. 入学者の減少に対応して，少人数教育を徹底するため，ゼミの人数の平均化を図り，学生の個性に応じた個人教育を充実する。
- b. 開講ゼミの減少に伴い，学生が複数のゼミ（主ゼミと副ゼミ）を履修できる体制づくりのための検討を始める。
- c. SSD（学科学生スタッフ）を組織的に強化し，学生の自主性・創造性・リーダーシップを高める。
- d. 留学生の多い学科として，留学生の学業面だけでなく，生活面での指導や悩みの相談など，留学生との交流を深める。
- e. 休学者や留年者，退学者を減らすとともに，学生の活発な就職活動を支援する。

## ②音楽学科

- a. 学生と教員間の親密なコミュニケーションを強化し、非常勤講師も含めた学科全体で学生の指導にあたる。
- b. FD活動を通じて教育をさらに充実させるとともに、教育成果の地域還元を促進する。
- c. 潜在能力の高い学生の引き上げを図るとともに、目標を見いだせない学生の修学支援を行う。
- d. 音楽関係や教職のほか、公務員や一般企業への就職も視野に入れながら、就職率の向上を目指す。
- e. 礼儀作法（マナーや言葉使い）、事務対応能力、社会的知識を強化することで、就業力育成に取り組む。

## (5) 大学院経済学研究科

経済学研究科の掲げた3つのポリシーに基づき、地域の経済・経営に貢献するスペシャリストを育成するために、大学院生一人ひとりの研究計画に基づき、論文指導、中間発表、及び論文発表等を通して徹底した個別指導を行う。その成果は、研究者の養成のみならず資格取得(税理士等)やビジネスマンにも不可欠な知識・能力およびノウハウを磨くことにも寄与しており、多くの高度で多様な実務能力を持った修了生を輩出することになる。

研究及び指導の絶え間ない向上とともに、国内的には実践的な教育機会を重視し、国外的には海外で活躍できる人材を育てる。

- ①学会発表や学会誌等への投稿、及び本学の『大学院学術論集』への投稿を促す。
- ②カリキュラムとスタッフの構成は、環境や時代の変化に応じて常に見直す。
- ③日本人学生には、研究や資格を取るだけでなく、留学生や外国とのイベント・交流を通じて積極的に外国に目を向けさせ、そこで活躍する学生を育てる。
- ④外国人留学生には、帰郷の際や内外の学会、就職等を通じて本学の良さをアピールしてもらおう。
- ⑤就職か進学かを学生各自に自覚させるために、入学時点及びその後のキャリア教育をしっかりと行う。就職を希望する院生には、キャリアガイダンス及び国内外でのインターンシップなどを積極的に受けさせる。
- ⑥各種の補助金獲得を積極的に勧める。

## (6) 大学院福祉社会学研究科

福祉社会学研究科の方針及び3つのポリシーに基づき、これまで高度な専門的教育研究を行い多くの有用な人材を輩出してきた。今後も引き続き専門的で有能な人材を養成するため、質の向上に力点を置いた魅力ある大学院教育の実現をめざしていく。

- ①平成28年度カリキュラム改正に向けた検討を進める。
- ②博士前期課程講義担当として平成27年度より学部専任教員1名に加わってもらう。退職によるスタッフ減への対応や博士論文指導の適切実施のためスタッフ充実計画を検討する。
- ③院生の教育研究能力向上のため、学会研究発表や大学院学術論集投稿の推奨、ティー

チング・アシスタントの積極活用，院生主導の研究会開催等を進める。

④指導教員による計画的指導，中間報告会等の適切な実施を図る。特に後期課程では学位審査基準に沿って，予備審査を含め厳正な審査を図るなど論文指導の強化に努める。

⑤留学生の学習支援，支援が必要な学生への対応，経済面への支援等の方策を検討し，実施する。奨学金免除・特待生制度等の制度の検討も行う。

#### (7) 大学院国際文化研究科

国際文化研究科博士前期課程（修士課程）には国語・英語・高校地歴・中学社会の専修免許課程があり，それぞれに応じた科目配置の必要性から必然的にカリキュラムが肥大化している。今後は，高校地歴・中学社会の専修免許課程を維持することの可能性・必要性を含めて，カリキュラムのスリム化を検討する。また，その場合，現在の「国際言語分野」「比較文化分野」「日本語・日本文化分野」の三つの専攻分野を二つの専攻分野にまとめることを目標に検討し，博士後期課程（博士課程）においても前期課程のカリキュラム改正に対応したスリム化を目指すこととする。

①「語学・歴史・異文化理解等を主とする国際的な高等教育」の推進

- a. 海外交流協定校との間の交換留学生の派遣と受け入れ
- b. 英語科と国語科の専修免許課程を維持するためのスタッフ数維持
- c. インターンシップを単位化するためのカリキュラム改正

②「芸術的側面からの国際文化研究」という特色づくり

- a. 音楽学関係の学生の教育・指導体制の強化
- b. 音楽学関係科目を増設するためのカリキュラム改正

### 3 研究計画

公的及び民間の競争的研究資金の獲得に向けた支援を充実させる。同時に，地域，企業，団体等との産学官連携を推進し，地域貢献を図る。各学部，地域総合研究所の紀要，出版助成等を通じ，研究成果を世界へ広く発信する。研究・教育スタッフの充実，研究環境の充実を図る。

#### (1) 経済学部

①経済学科

- a. 紀要への投稿を促進する。
- b. 学科主催の研究会を実施する。
- c. 卒業研究を公表する。

②経営学科

- a. より有意義な新生ゼミナールのあり方を探求するために，新2年生を対象とするアンケート調査を実施し，経営学科教員全員で研究する。
- b. 学会委員会主催で開催される学内講師や外部講師による研究会を通じ，学術研究等への刺激とする。
- c. 学術研究を推進し深化させるため，学科選定図書，データベース等の図書関連資料の充実を図る。

## (2) 福祉社会学部

教員各自が、それぞれの研究計画に基づいて着実に研究を推進するとともに、研究成果を学内・学外に公表していく。また、学科・学部の教員や学生が協働しながら、地域と連携した研究及び社会貢献活動を推進する。

### ①現代社会学科・社会福祉学科・児童学科共通

- a. 学部論集をはじめ学会紀要や専門雑誌に、研究成果をこれまで以上に積極的に発表する。また、外部資金の獲得にも努力する。

### ②現代社会学科

- a. 現代社会学会誌『カレイドスコープ』に、学生との協働による研究成果を公表する。

### ③社会福祉学科

- a. 学生と協働しながら、外部の保健福祉関係者や卒業生等を講師に迎え、ソーシャルワーカーデーやシンポジウム等を年2回以上は開催する。

### ④児童学科

- a. 学生と協働しながら、外部の幼児教育・初等教育関係者や卒業生等を交えた学びのイベントを年1回以上は開催する。

## (3) 国際文化学部

### ①国際文化学科

- a. 学部主催の「学内研究会」を充実し教員の研究力の向上を目指すとともに、地域との「文化交流」、学生の主体的な研究に資するような役割を担わせる。
- b. 学部の紀要の充実を図る。執筆者を確保するために投稿規定の見直しなどを引き続き検討する。
- c. 学内で「国際文化」に関するシンポジウムなどの実施を検討し、成果としての論集の特別号の発行を考える。

### ②音楽学科

- a. 『教員定期演奏会』や紀要の充実に努め、研究成果の地域還元を促進する。
- b. 公的機関や芸術文化団体等からの要請に積極的に応じることで、さらなる地域貢献に務める。
- c. 個々の演奏活動や研究活動の充実を図るとともに、教育活動とのエネルギー配分を調整する。

## (4) 大学院経済学研究科

学位論文の発表や中間発表会の活性化とともに、大学院の研究及び教育水準を高めなければならない。そのために、主に次の3点に継続して取り組む。また、このことをガイダンス等を通じて積極的に説明し促して行く。

### ①学会発表、学会誌及び『大学院学術論集』等への投稿

### ②フィールドワークなど実践的教育に関する積極的参加

### ③博士学位取得者の輩出の増加



#### (5) 大学院福祉社会学研究科

##### ①地域連携共同研究の推進と外部資金の積極的導入

- a. 地域の関連機関等との共同研究や教員と院生による研究の展開を検討し、科学研究費等の積極的導入を図る。

##### ②研究科主催の公開シンポジウムの開催

- a. 県社会福祉士会等との連携・情報交換を踏まえつつ、シンポジウム・講演会・研修会等を開催する。

#### (6) 大学院国際文化研究科

##### ①修士論文作成における指導の充実

- a. 指導教員のほかに必ず副指導教員（非常勤講師を含む）を配置する。
- b. 研究計画書・研究報告書の提出期限を厳格に守るように指導する。

##### ②博士学位取得者を輩出する

- a. 昨年度の課程博士授与1名に引き続き、課程博士学位授与を実現する。
- b. 学生の学会発表の指導に力を入れる。

### 4 産学官連携の取組

建学の理念である「地域社会に貢献する人材を育成する」を完遂するために、平成27年度から産学官地域連携センター及び生涯学習センターを設置し、地域総合研究所事業との協働による鹿児島市などの地方自治体や大学、民間企業等との連携を強化するとともに、「高大連携」や「生涯学習センター」の活動を通して、全学的な地域再生・活性化に貢献する取組や学生の資質向上を積極的に推進する。

- (1) 産学官地域連携の企画・調査・研究及び推進体制の整備
- (2) 地方自治体及び民間企業・地域と連携した教育活動の実施
- (3) 地方自治体及び民間企業等との連携協定の締結促進
- (4) 高校生体験学習の実施及び関係する連絡会など高大連携の推進
- (5) 高等教育の質的向上の推進や教育資源の交流促進など大学間連携の活性化
- (6) 生涯学習及び社会教育の企画・調査・研究の推進

### 5 国際化の推進

本学のコアミッションである「国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材を育成する」ために、国際化戦略を再構築し、国際化を推進する。

#### (1) 海外戦略の新構築

協定書に基づいて、既存協定校との交流の現状や実態を検証するとともに、アジア地域を中心とした新たな海外拠点づくりに着手する。

- ①既存協定校との交流実態の再検証
- ②アジア地域からの留学生確保を視野に入れた現地視察・情報収集
- ③アジア地域を中心とした新たな海外拠点づくり

## (2) 語学力の強化

平成 28 年度入学生から、鹿児島県の地域ビジネスの実態とニーズを踏まえた、「ビジネスの現場で使える実践的な外国語運用能力」を開発する学部横断型コース〔国際グローバルコース〕の設置を図る。

## (3) 海外留学・海外インターンシップの充実

留学生の派遣・受け入れを促進し、海外インターンシップを充実・発展させるとともに、新規受入先の調査・開拓を行う。

- ①協定校への留学生派遣・受け入れの促進
- ②海外インターンシップの充実・発展
- ③新規インターンシップ先の開拓
- ④「2015 留学フェア in ベトナム」への参加

## (4) 英語・中国語・韓国語版ホームページの充実

ホームページのリニューアルに併せて、「外国語版」ホームページの充実を図る。

- ①既存「英語版」・「中国語版」ホームページの更新・充実
- ②「韓国語版」ホームページの設置に向けた検討

## 6 学生募集計画

学生の安定確保を図るために、学生募集の全学的な取組やオープンキャンパスの充実、広報戦略の見直し等を積極的に進め、全学一致の募集体制を推進する。

### (1) 学生募集の全学的な取り組み

- ①教職員で取り組む募集体制の構築
- ②志願者・入学者増加対策等の検討
- ③学費等の経済的支援の見直し
- ④国際化の推進による留学生の確保

### (2) オープンキャンパスの充実

- ①平成 26 年度オープンキャンパス委員会からの意見を踏まえたオープンキャンパスのリニューアル
- ②開催時期や場所及び内容の工夫と集客

### (3) 「広報戦略」の徹底的見直し

- ①オープンキャンパスに参加する県外・離島在住者の参加者交通費補助の実施
- ②大学キャンパス内の 3D パノラマナビの制作
- ③入試広報と学内広報を一体化した担当課（入試・広報課）の設置

## 7 施設整備計画

### (1) ラーニングコモンズの整備

- ①図書館の現ブラウジングコーナーに電子黒板、ローカウンター、ホワイトボードほかプリンター等を設置し、学生がディベートできる空間（ラーニングコモンズ・・・学修のために集う共通の場所）を整備する。

- (2) 課外活動施設の主な整備
  - ①テニスコート修繕工事の実施
  - ②剣道場床板張替え工事の実施
- (3) 教室環境（8号館）の整備
  - ①「グループ学習室」, 「学生用教材制作・資料室」, 「プレイルーム」の整備を行う。
- (4) 5号館耐震補強・外壁修繕工事
- (5) 便所改修工事
- (6) フィールドハウス倉庫改修工事
- (7) 1号館高架水槽取替工事
- (8) 学生駐車場旧守衛所階段滑り止め工事
- (9) サークル棟電源改修工事
- (10) 教室のデジタル化に伴う機器備品

## 8 その他重点的事項

- (1) 就職・就業力の向上
  - ①就職内定率96%（全体）を目標値とする。
  - ②航空会社や地元空港等，エアラインインターンシップ企業の新規開拓を行う。
  - ③本学卒業の企業経営者を招き，学生のキャリアガイダンスでの講話や就職セミナーを実施するなど本学卒業企業経営者の会との連携を強化する。
- (2) ホスピタリティの向上
  - ①学生の意見を把握し，改善を図る。
  - ②喫煙問題について検討する。
- (3) 地域総合研究所の取り組み
  - ①プロジェクト共同研究及び地域との交流活動
    - a. 「南大隅町を中心とした大隅半島地域の地域づくりと産業の育成」の最終年度として活動を行うとともに，報告シンポジウムや地域セミナーの開催を計画する。
  - ②地域からの委託研究
    - a. 天城町地域福祉計画策定への協力として天城町役場との委託契約や，鹿屋市社会福祉協議会との「安心生活推進事業」の調査企画実施報告についての委託契約を行う。
- (4) 事務局の組織再編
  - ①大学を取り巻く昨今の社会環境の変化などを踏まえ，新たな課題や業務等に的確に対応するため，平成27年度から学生総合支援センター，産学官地域連携センター，企画・国際課，生涯学習センター等を設置する事務局組織機構の再編を行い，相互の補完・連携・協力がより図られ易い体制を構築する。
- (5) 図書館の機能充実
  - ①図書館業務の一部（カウンターサービスと目録作成業務等）を外部委託し，図書館業務従事者の継続的な配置を可能にすることで，サービスの質の向上・安定化を図る。
  - ②通常時19時閉館を1時間延長し，20時閉館とする。

- ③資料の除籍作業などの未処理業務の処理を加速化する。
- ④隔年で実施してきた文部科学大臣委嘱司書講習の開催
- (6) 国民文化祭事業
  - ①「第30回国民文化祭・かごしま2015」に積極的に参加するため、国民文化祭提案事業に応募し助成の決定した「G. F. ヘンデル『メサイア』全曲演奏」及び「国民文化祭記念・オンリーワン鹿児島木の俳句コンテスト」を実施する。
- (7) 認定こども園に係る特例制度講座の実施
  - ①認定こども園に係る特例制度講座（特例講座）を開講し、社会的貢献に寄与する。
- (8) 職員提案制度の創設
  - ①職員一人ひとりの問題意識、課題解決能力及び企画力を高めるとともに、業務の簡素合理化及び事務改善の効率化を図るため、職員提案制度を創設する。
- (9) 学生ボランティアへの支援体制の強化
  - ①学生部学生課を「ボランティア支援センター」と位置付け、学生のボランティアに関する相談窓口とするとともに、学内の障がい者への支援を行う。
  - ②学生への学外からのボランティア依頼を積極的に紹介し、活動状況の把握などを通じ、支援体制を強化する。
- (10) 第三者評価機構からの指摘事項に対する改善
 

平成24年度の大学基準協会評価結果に基づき、提言に対する「改善報告書」を平成27年度中に作成し、平成28年7月までに提出する。

  - ①自己点検・評価委員会の開催とスケジュール管理
  - ②提言に対する「改善報告書」（平成26～27年度分）作成
  - ③「自己点検・評価ノート」（平成26～27年度分）作成
- (11) 若者文化の醸成
 

学生主体の企画を通して地域における若者文化の醸成を図り、多くの若者(学生)たちが集う大学を目指す。

  - ①学生・教職員からのアイデア募集
  - ②オリジナル・グッズ等の企画・立案
  - ③オリジナル・グッズ等の製作に向けた検討

以上 鹿児島国際大学

# 鹿児島高等学校

## 1 基本方針

「克己」「謙虚」「礼節」の校訓の具現化を柱として、

- (1) 生徒を伸ばすための教育活動（授業—学力，部活動—上位入賞・達成感，学校行事等—共同感・満足感）の充実を図る。
- (2) 進路実績の一層の向上のために進路指導システム（補習体制，個別指導体制，二者面談等）の改編充実を図る。
- (3) 生徒の自己指導力を育成するための積極的な生徒指導を展開する。
- (4) 生徒定員確保のための方策について全校的に研究・実践していく。

## 2 教育計画

### (1) 教務部

#### ①学校評価

学校評価について，評価方法を改善し，魅力ある学校作りに活用する。

#### ②教育課程の管理

教育課程の管理を適切に行い，学力向上につなげる。

#### ③教育職員の資質向上

資質向上のための各種研修を見直し，計画的に実施する。

#### ④入学試験業務をより正確により能率的に行う。

業務を分担し組織化する。

### (2) 生徒指導部

#### 《生徒指導》

#### ①規範意識の高揚

a. 姿，形など校則遵守

b. 交通マナー（徒歩，自転車，公共機関）

#### ②携帯電話を正しく利用させる。

a. 外部講師の講演や社会状況を認識する。

b. 三者間（学校，生徒，保護者）で連携をとる。

#### ③教師間の意思の疎通を図る。

共通理解，共通実践

#### 《要支援生指導》

#### ①支援の必要な生徒へ早期に働きかけられるように努める。

a. 担任の日常観察や二者面談の活用

b. 保健室の健康観察記録の利用

#### ②それぞれの生徒に応じた適切な支援を検討し，教職員間で共有化する。

a. 担任，保健室，グリーンルーム，相談室，スクールカウンセラー等で本人や保護者にアプローチする多角的な状況把握

b. 支援委員会での具体的な指導や支援の検討

c. 学年会や職員会議等での検討や周知

③校内外の研修・講演会などへ参加し、教職員の対応スキルアップを目指す。

### (3) 進路指導部

#### 《進学指導》

①学科の目的に応じた学年の到達度を設定し、教科との連携により学力向上に努める。

②鹿児島国際大学とのさらなる連携に努め、同時に難関大進学者増加に向けて強化を図る。

③確かな進路実現のため、保護者との十分な連携により、生徒各人の能力に応じた適切な進路指導を行う。(・国公立大学の現役50名、推薦A0合格10名を目指す。)

#### 《就職指導》

①3年間を見据えた指導体制を確立し、キャリア教育を推進する。

早期進路目標の設定等、希望者全員の進路実現を計画的に進める。

②基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着を図る。

教科、学年との連携を充実し、継続的な指導を進める。

③生徒一人ひとりの希望を大切にされた就職指導を充実させる。

求人企業の拡大に努め、就職率7年連続100%を目指す。

### (4) 保健安全部

①保健指導を推進し、健康的な生活習慣の実践を目指す。

a. 各担任や三弧会、保護委員会と連携して、保健指導強調週間を実施する。

b. 生徒指導部と連携して、欠席・遅刻者を減少させる取組を行う。

②危機管理意識を高め、命を大切にする行動ができる生徒の育成を目指す。

安全指導や防火防災を充実・強化し、全職員の共通理解・共通実践を図る。

### (5) 学科

①普通科 自分の才能を伸ばし、進路を実現する

#### a. 生活習慣の確立

1 学年 挨拶の励行と規則の順守

2 学年 無遅刻無欠席と時間厳守

3 学年 礼節ある生活

#### b. 学習習慣の確立

1 学年 授業集中と得意科目づくり

2 学年 自宅学習の充実と基礎学力の向上

3 学年 進路に応じた学習

#### c. 進路目標の実現

1 学年 自分の才能発見と目標の確立

2 学年 進路目標の設定と実績の積み上げ

3 学年 社会貢献と進路実現

②英数科 自己実現

a. 1 学年 自律—基礎力充実

初期指導の充実と基本的生活習慣の確立  
家庭学習習慣の確立と基礎学力の向上  
能力と適性に合った進路選択

b. 2 学年 向上一思考力の養成

家庭学習習慣の定着と基礎学力の充実  
主体的な思考力・判断力・表現力の養成  
能力と適性に合った進路目標の決定

c. 3 学年 自立—応用力完成

安定した実力の発揮と合格力の育成  
マナーやモラル・コミュニケーション能力の向上  
不断の努力と進路目標の実現

③情報ビジネス科

a. 基礎学力の向上

1 学年 8 時登校の徹底と基礎学力の定着  
2 学年 幅広い教養の修得  
3 学年 修得した学力・教養の応用

b. 専門知識の習得

1 学年 全商主催検定 3 級の取得  
2 学年 全商主催検定 1 級の取得  
3 学年 多種目 1 級取得と上級資格取得への挑戦

c. 進路指導の体系化

1 学年 自分の適性確認  
2 学年 職業観の育成  
3 学年 進路計画の具体化と実現

### 3 生徒募集計画

- (1) 生徒募集対策委員会を中心に中・長期的な募集活動を検討する。
- ①魅力ある学校作りを検討し、受験生の専願率を上げる。
  - ②鹿児島高校の魅力の中学生にしっかり伝える方法を検討し実行する。
- (2) 中学校、学習塾との連携・緊密化を図る。
- ①訪問回数、時期、内容の見直し。配布資料等の見直し。

### 4 施設整備計画

- (1) 施設設備の維持管理に努める。
- ①体育館の年次計画的な改修を推進する。
  - ②校内ネットワーク機器の更新

## 5 その他の計画

### (1) 業務の改善

予算管理，その他業務の見直しにより厳正化・効率化を図る。

### (2) 退学者の減少

グリーンルームの活用を図り，退学者減に努める。

### (3) ホームページのリニューアル

更新作業等の改善を図り，さらにアクセス対応等の充実を図る。

以上 鹿児島高等学校



## 鹿児島修学館中学校・高等学校

### 1 基本方針

建学の精神に則り、全人教育を基調として、将来、社会（国家社会・国際社会）の発展と人類の進歩に寄与し得る有為な人材を養成する。

- (1) 生徒の個性・能力を伸長し、自主性・独立性・創造性を培う。
- (2) 自由と規律・寛容と協調の心を育てる。
- (3) 進路実現のための高い学力の養成に努める。
- (4) 健全で豊かな精神を養い、人生の真理の追究と幸福を追求する人間を育成する。

### 2 教育計画

- (1) 1年間の円滑な学校生活・運営の提供

- ①年間指導計画の作成・提示と実践（4月中に学年保護者会で提示）

年間計画（シラバス）を年度当初に生徒・保護者へ提示

- ②社会人基礎力の養成

6年間及び3年間の「7つの習慣J」, 中学2年生の「社会貢献」や高校3年生の「大学入試への取り組み」を, 体系化できるような学校行事を計画

- ③職員の研修（職員研修年2回実施）

指導力向上のための研修を計画

- ④授業の公開（授業公開週間, 毎学期の学年保護者会で公開）

保護者会・授業公開週間において, 保護者や地域の方々に対する授業公開

- ⑤検討課題研究

- a. 学校行事・教育課程の見直しと改善

教育キャンプや体験学習等の学校行事の見直し

教育課程の再編

- b. 鹿児島高校・鹿児島国際大学・鹿児島幼稚園との連携

姉妹校と, 資質向上・ホスピタリティ向上連絡委員会における連携

鹿児島国際大学と国際交流授業等の実施

鹿児島高校と部活動での生徒間交流及び研究授業・学校行事を通しての職員間の研修・協力

- c. 地域との連携・情報発信

地域へ, 毎月町内会便りで修学館の情報発信及び本校の各種行事を町内13か所の掲示板で紹介

文化的行事や交通安全運動の際の協力

- (2) 生徒の一人ひとりの学力・目標に応じた指導の充実

- ①ICTの導入と活用

「授業・学校支援サービス（ベネッセ）」を活用した生徒カルテの作成

タブレット・プロジェクターを活用した授業の展開

- ②生徒個々の学力向上
  - 朝補習，放課後補習の習熟度別授業や添削指導を用いた効果的な活用
  - 生徒カルテを用いた個々の生徒の学力の把握と対策
- ③進路意識の涵養と確立
  - 「OBトーク」「進路講演会」などによる上級学校または職業への興味・関心の喚起
  - オープンキャンパスなどへの積極的参加の呼び掛け
- ④進路情報の提供
  - 保護者会・進路ガイダンスの開催，進路便りの発行
- ⑤指導力の向上
  - 生徒への授業アンケートの実施
  - 指導力向上のための教員研修プログラムへの参加
- (3) 一事徹底
  - ①基本的な生活習慣の確立
    - a. 朝の校門指導の実施
    - b. 公共の場でのマナー指導
    - c. 携帯電話等安全教室の実施
  - ②生徒会の活性化
    - a. 「あいさつ運動」「朝の清掃活動」への主体的な取り組み
    - b. 学校行事運営への積極的な取り組み
    - c. ボランティア活動への参加・協力
  - ③生徒自身の健康への意識高揚
    - a. 健康診断等の実施についての事前及び事後措置
    - b. 保健だより「えがお」の発行
    - c. AEDを用いた心肺蘇生法講習会の実施と保健講話の実施
    - d. 校舎内外の安全点検の実施
  - ④いじめ対策と生徒相談の充実
    - a. 教育相談の充実(スクールカウンセラーとの連携の充実)
    - b. 「絆週間」を年2回実施(相談内容の報告)
    - c. 不登校傾向の実態調査
    - d. 自習室登校生徒への対応の充実
    - e. LHR・道徳の時間の活用
    - f. いじめ防止基本方針に則った実践(Q-Uの年2回の実施)
  - ⑤ホスピタリティの向上
    - a. あいさつの励行
    - b. 学校周辺及び通学路の清掃

### 3 生徒募集計画

(1) 新たな視点で、より効果的な広報を行う。

- ①より効果的な塾・学校訪問の実施
  - a. 4～5月 訪問塾の新規開拓（南薩方面）
  - b. 6月，9月，11月 塾・学校訪問（案内）
  - c. 1～3月 塾・学校訪問（報告・お礼）
  - d. 公立中での学校説明会への参加
- ②より効果的なイベントの運営
  - a. オープンスクール
  - b. 塾対象説明会
  - c. 学校説明会
  - d. 私立中高フェア
- ③より効果的な広報活動
  - a. ホームページの充実と更新
  - b. 修学館の周知活動
  - c. 新聞の投稿欄，各種コンクールへの積極的参加

### 4 施設整備計画

(1) 魅力ある学校を目指して

- ①魅力ある学校づくり
  - a. 生徒や保護者の満足度向上に繋がる施設・設備の見直し・充実
  - b. ホスピタリティの向上  
窓口・電話対応の向上
- ②図書室の魅力づくり
  - a. スペースに余裕のある使い易い書架づくり  
受入冊数と同数程度の資料の書庫への移動，除籍・廃棄を実施

### 5 その他の計画

(1) P T A・同窓会との連携

- ①P T Aと連携した共同事業の実施
- ②同窓会活動への積極支援

以上 鹿児島修学館中学校・高等学校

## 鹿児島幼稚園

### 1 基本方針

**創立 86 年目・再興 46 年目を迎えます。一人ひとりを生かす確かな保育を目指します。**

恵まれた自然環境を生かして、元気で、明るく、のびのびと活動する心豊かな幼児を育てる。

(キャッチフレーズ「緑いっぱい 笑顔あふれる 鹿児島幼稚園」)

- (1) 一人ひとりを大切にした教育に徹する。
- (2) 子どもの主体的な活動を促すとともに、創造性を豊かにする。
- (3) 基本的な生活習慣や態度を育て、豊かな心情を育む。
- (4) 家庭・地域との連携を深め、子どもの自立に向けた基盤を育成する。
- (5) 全職員によるホスピタリティ精神の具体化を図る。(あいさつプラスワンの言葉かけ)

### 2 教育計画

- (1) 子どもの一人ひとりの良さを伸ばす保育の充実
  - ①保育内容の見直しと環境づくり
  - ②平成 27 年度県大会発表に向けた園内研修の充実による教員の指導力の育成  
テーマ「一人ひとりの自己肯定感を高める保育の改善」
  - ③特別支援教育及び「幼児教育相談」の充実
  - ④教育実践や園児の活動(作品)の積極的応募  
(全学年による教育論文、絵画コンクール等への応募)
- (2) 心の教育の充実～“明るい笑顔・元気なあいさつの幼稚園に”
  - ①基本的な生活習慣・態度の育成(あいさつ・はいの返事, スリッパ並べ)
  - ②異年齢での交流活動の促進
  - ③絵本に親しむ活動の充実
  - ④花や野菜の栽培や動物の世話など自然とのふれあいの充実
- (3) 保健・安全管理の徹底
  - ①日々の安全指導の徹底(けがの防止・病気の予防・不審者対策)
  - ②園バスの安全運行
  - ③健康教育の徹底(うがい・手洗いの励行)
  - ④給食指導の充実による「食育」の推進
- (4) 家庭教育の充実及び地域の子育て支援センターの役割強化
  - ①未就園児親子対象の「ちびっこクラブ」の充実
  - ②「ハッピー&子育て講座」の充実と「赤ちゃん講座」の推進(年 3 回程度)
  - ③「親子で遊ぼう」(在園児対象)の活動内容の充実
  - ④保護者・地域の声を生かした「開かれた幼稚園」づくり  
・ 4 年保育(つばみ組)の円滑な推進と今後の在り方についての研究
  - ⑤預かり保育の円滑な推進
  - ⑥諸園だより, ホームページによる保護者への啓発・連携・強化

- (5) 鹿児島国際大学の教育実習園としての役割・機能の強化
  - ①大学(児童学科)との連携・協同による幼児教育の充実・推進
  - ②諸教育実習の充実・改善
  - ③学生の保育体験やボランティアの受け入れ
- (6) 幼・小・中学校や地域との連携
  - ①近隣幼・保・小・中学校と授業参観(保育)・情報交換などをおした連携
  - ②地域(高齢者)や施設(特老)との交流

### **3 園児募集の計画**

- (1) ちびっこクラブの充実と参加人数の確保
- (2) 鹿児島幼稚園のよさや特色等についての積極的な広報
- (3) 今後の幼稚園のあり方についての研究・検討
  - ・積極的な情報収集に努める

### **4 施設整備計画**

- (1) 園舎・リズム室間外廊下床シート貼替え
- (2) 保育室備品・空調機器の老朽化に伴う取替
- (3) 幼児用便器取替(洋式化)
- (4) 駐車場の整備(ライン引き)
- (5) 施設の安全点検の徹底
- (6) グランドの維持管理
- (7) 花や野菜等の計画的な栽培

### **5 その他の計画**

- (1) 事務のホスピタリティ推進
  - ①窓口業務の丁寧・迅速な対応
  - ②幼稚園見学者や入園希望者への丁寧な対応
- (2) 事務の円滑な推進と環境整備
  - ①情報の共有化と連携
  - ②4年保育園児増員に伴う備品等の補充

以上 鹿児島幼稚園